石巻専修大学
「石巻専修大学」ホームページ
http://www.senshu-u.ac.jp/ishinomaki/

代表電話番号
0225(22)7711
広報専用FAX
0225(22)7809

石巻川開き祭り

今年から大学行事に

8月1日を地域貢献日に設定

学生、教職員約200人が参加

▶「孫兵衛船競漕」息を合わせ、ゴールを目指した

▲「大漁踊り」フジモドキをあしらった薄紫の浴衣が目抜き通りを染めた

石巻地方最大の夏の催し「石巻川開き祭り」が7月31日、8月1日の2日間にわたって開催された。本学は全学的に「地域貢献日活動プロジェクト」を立ち上げ、学生、教職員合わせて約200人が参加。石巻商工会議所駐車場に設置したテント内で本学のグッズを販売したほか、大漁踊りや孫兵衛船競漕（きょうそう）、ボランティア活動などを行い、祭りを盛り上げた。

今年度から『川開き祭り』を全学的な大学行事と位置づけ、8月1日を地域貢献日に設定。補講などの学内行事を休みにしたほか、7月31日も午後の補講を別日にずらし、多くの学生が参加できるよう、環境を整えた。

旧北上川を舞台に、手に汗握る熱戦が展開される孫兵衛船競漕は、一般の部に男女混合の「ボランティアサークルひだまり」チームが出場。予選突破はならなかったものの、初々しいオールさばきで会場を盛り上げた。

祭りのフィナーレを飾る大漁踊りには、本学からは5年ぶりに、女子30人を中心とした36人が参加した。

温州大学からの交換留学生2人を含め、全員が初挑戦。地元出身の教職員から振り付けや手拍子の指導を受け、練習を繰り返して本番に臨んだ。

薄紫の浴衣にピンクの帯を締めた本学チームが踊り進むと、メインストリートは清楚な雰囲気に包まれ、沿道から大きな拍手が送られた。

人間学部の学生はボランティア活動で活躍。流燈の組み立てや花火大会後のくず拾いを行い、祭りの成功を支えた。

参加した学生会長の菊池省吾さん（経営3・岩手県専大北上高）は「これからも地域に根ざした大学として、震災からの復興だけで終わらせず、石巻市の発展に貢献していきたいです」と充実した表情で話した。

◀「大縄引き」体育会チームが奮戦

第26回知能ロボコンに出場

ロボ研 ロボ健闘

▲　高橋さん（中央）らが製作したロボットが競技に挑んだ

自作した完全自動ロボットで課題をクリアし、得点を競う「第26回知能ロボットコンテスト」（6月14、15日、スリーエム仙台市科学館）に本学ロボット研究会（顧問＝水野純准教授）が出場した。理工学部機械工学科4年次の高橋裕樹さん（宮城県塩釜高）をチームリーダーに、3年次生1人と1年次生7人が2台のロボットを製作し、チャレンジコースで健闘をみせた。

この競技は、制限時間の5分以内に3色のボール16個をゴールに入れるもので、同色のゴールで3点、その他は1点が入る。スタート後はロボットに指示を出すことができないため、総合的なモノづくりの知識・技術・経験が問われる。

ロボット研究会の2台のうち1台は、参加全71チーム中、12位で終えた。上位8チームによる決勝進出はならなかったが、実力を発揮し、良い実績をしっかり残した。

高橋さんは「今回のロボコンで結果が残せたことをうれしく思います。この結果に満足せず、これまでの経験を生かし次の大会では決勝進出を果たし、さらに入賞できるロボットの製作に励んでいきます」と振り返った。

OB教員と交流

人間教育学科7人

▶　卒業生と学生が意見を交わす

本学を卒業した中学校・高校の現役教員4人と、教員を志望する人間学部人間教育学科の学生7人による交流会が7月19日、5号館の保育実習室で行われた。

これは、教職に就いている本学卒業生らで組織された「石巻専修大学教育会」（大瀧学会長＝平11経営）と人間学部が連携し、学生たちの意欲を刺激しようと実施した企画。学生たちは卒業生からの現役教員ならではの的確なアドバイスを伺い、教員を目指す決意を新たにした。

阿部智子さん（人間2・宮城県石巻市立女子高）は「現場で必要な力や大学生活で身につけておくべきことなど、貴重なお話を聞くことができました。ここで学んだことを来年の教育実習で生かせるよう、もっと力をつけていきたいです」と感想を話した。

また当日は、交流会に加え、人間学部の施設見学会も開催。夕方には石巻市内で教育会の総会・懇親会も行われた。

10件の研究成果を報告

▲　成果を報告する坂田学長

石巻専修大学共創研究センター（中込真二センター長）の「平成25年度研究成果報告会」が7月18日、本学で開催された。10件の研究プロジェクトについて、代表者から研究概要の説明と昨年度の成果が発表された。

同センターは、大学と自治体や企業が密接に連携し、石巻地域の活性化を目指そうと2009年に発足。以降、多くの研究プロジェクトを立ち上げ、本学の知的成果を地域に還元しようと、活動に取り組んできた。

今回の報告会では、「東日本大震災による被災と学生の健康指標等の関係に関する調査研究」（坂田隆研究代表）などの東日本大震災後に行われている調査や、「塩と海をキーワードにした石巻圏の活性化を目指した資源発掘」（角田出研究代表）などの地域の持続的発展を目指した研究について報告が行われた。

新しい大学バスが納車

車体に「石巻専修大学」のロゴとマスコット「センディ」がプリントされた新しい大学バス（三菱ふそう製・42人乗り＝写真）がお披露目された。

これまで使用されていた大学バスの老朽化に伴い、買い替えられたもので7月31日、本学に到着。各学部の授業の移動や、サークル活動の遠征などに活用される。

69人に修了証

開放講座

6月から開講されていた「みやぎ県民大学　石巻専修大学開放講座」（全8回）の閉講式が7月30日に行われ、6回以上の講座を受講した69人に、杉田博大学開放センター長（経営学部教授）から修了証が手渡された＝写真。

今年度は「文化を生きる」を統一テーマに、本学の8教員が講演した。スポーツ、芸術、歴史、食など、さまざまな文化を紹介。最終回では佐藤利明人間学部教授が「地域は文化を創る。文化は地域を造る。」をテーマに、文化と地域とのかかわりを解説した。

「文化とは何か」について考えた今回の講座は関心を集め、多くの学生や市民らが出席。毎回70人を超える受講生が詰めかけ、好評だった。